

## 《講師からのメッセージ》

「発達グレーゾーン」と呼ばれる方が増えています。

ちょっと多動かな、と思ったり、ちょっと癩癩が激しいかな、と思ったり・・・

でも、実際には「たったそれだけで」発達グレーゾーンとは診断されません。

そして現実では、発達グレーゾーンと呼ばれる方が増えたわけではなく、きっと以前からいわゆる「グレー」だった方たちはたくさんいて、

でもその人たちが自分では「グレー」だとは気付かずに、そしてまわりからも誰からも気づかれることなく、過ごして来られたのだと思います。そういった方たちが、いわゆる「グレーゾーン」と呼ばれるようになったのではないかと思います。

最近では、こうした「発達障害なのではないか」と疑った時の「チェックポイント」や、「発達障害診断サイト」のようなものもとても増えています。

そして、「発達障害」を診断してくれる医療機関や医師が増えて来ました。

こうして、「発達障害」という言葉が多く知られるようになったから、「発達グレー」と呼ばれる人も増えただけであって、統計的には昔からさほどその数は変わらないのではないかと私は想像しています。

きっと、今でも「グレー」のまま、診断を受けずに、日々の困りごとに一生懸命な方がたくさんいらっしゃるのではないかと・・・

音楽レッスンをされている皆さまも、一度はそういった「この子グレーかな？」と思われるレッスンを行ったことがあるのではないのでしょうか。

そんな時、どんなことに工夫されていますか？あるいは、レッスンがスムーズに行かなくて困りごとを感じることはありませんか？

あるいは、グレーではない人とのレッスンを比べてみた時に、その違いなどは感じられますか？

本講座では、【音楽レッスンにおける様々なシチュエーション】を想定した、実践さながらの対応方法が学べるのに加え、発達障害の基礎知識や、各診断ごとの特性の詳細、さらに実際の支援方法も学べる、専門的な内容となっております。

ぜひこの機会に、発達に凹凸があってお困りの方や、ご家族の方に支援の手を広げていただきたく思います。

そしてレッスンをされている先生方の、少しでもお役に立てれば嬉しく思います。

ぜひ、ご受講ください。